

平成27年度 各種調査結果等を活用した学力保障の取組事例

事務所名	宮古	学校名	宮古市立高浜小学校	TEL	0193-62-5567
------	----	-----	-----------	-----	--------------

学校全体で取り組む学力保障への取組（授業改善と習熟の時間の確保）

【今年度の目標】

- ① 児童生徒質問紙「授業がよく分かる」の「よく分かる」の回答を増加させる。（特に国語）
- ② 算数では、四則計算の正答率を全員が80%以上とする。
- ③ 「読むこと」の領域の正答率を全国・県正答率より2ポイント以上上げる。

【組織的な対応を図る上で工夫した点】

組織改善：①研究部と教務部、学力向上担当が連携して学力向上に取り組む。

教務（学力向上担当）：諸調査後すぐに、A4用紙1枚に簡単な結果と分析をまとめ全職員に回覧し共有を図る。

研究：全職員に問題を配付し、詳細を分析させ、授業改善の視点を提案し協議させる。

→まとめたものを交流し、授業改善の視点及び方向性を明らかにする。

②スキルアップタイムの活用と個別指導学習により、個の習熟時間の確保

教務（学力向上担当）：県学調、全国学調、CRTの小問ごとの分析を活用し、定着の不足分野のプリントを全学年分準備した。

担任：全国学調、県学調後すぐに採点し、水曜日の6校時の個別指導の時間に補充指導し、教育課程に位置づけ、定着を図った。

その他：朝学習時、1つの学年に担任外5人が入り、20分間個別指導にあたった。日を変えながら全部の学年に指導ができるようにした。即時評価を行うことで、児童は間違っただま進むことが少なくなったり、分からないまま朝学習の時間を終えることが少なくなったりした。

授業改善：研究部が中心となり推進

①模擬授業型事前研の導入

事前研の際に、授業者に「授業をする上での悩み」を聞き、その悩みが解決するため話し合いを行い、代案を出す。

②各教科等の学習において「条件に合わせて書く活動」を充実させるために、ノートの交流や研究通信を通して事例を見合う機会を設けた。

③他校の公開、授業研でよいと思ったことは取り入れながら、授業改善とともに研究の改善も行った。→今年度は大沢小の公開を参考に「振り返り」の時間を確保。

④教師の授業力、学級経営力アップのために「個人レポート」の発表の時間を設けた。

【具体的な取組1 授業改善】

① 各種調査結果等をもとにした校内研究の推進

本校では、平成18年度からの8年間「確かな読みの力を育てる国語科指導」を、そして、平成26年度は、「自分のことばで表現する力を育てる国語科指導」について研究してきた。研究の成果と課題を各種諸調査の結果から分析すると次のような良さや課題が明らかになってきた。（○成果▲課題）

○思考させる言語活動を取り入れたことで、国語科の「基礎的・基本的な知識・技能」である順序に沿って読んだり、構成について考えたりすることができるようになってきた。

H26県学調「読むこと」正答率72.2%、（岩手県65.0%）

H27全国学調A「読むこと」正答率75.4%（岩手県73.1%、全国70.0%）

B「読むこと」正答率77.8%（岩手県67.9%、全国65.4%）

○音読発表会や作文発表等では、全校の前で発表する場を意図的に設定することで、自分の考え（感想も含め）を聞く人に伝えるために思考したり推敲したりする等、自分のことばで表現する力が育ってきた

H 2 6 県学調「普段の授業で、自分の考えを発表する機会が与えられていると思いますか」

→「そう思う」本校 89%（県 53%）

H 2 7 全国学調「5年生までの授業で、自分の考えを発表する機会が与えられていると思いますか」

→「そう思う」本校 77.8%（県 56.9%）

○校内のアンケート結果からは、言語活動を工夫したことで、国語に対する関心・意欲が高まり、「楽しい」と感じる割合が高くなった。

▲自分の考えと他の考えを比較したりしながら、さらに高めようという意識が弱い。

H 2 7 全国学調「学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」

→「そう思う」22.2%（全国 25.2%、県 29.4%）

▲自分の考えを自信を持って表現する力が弱い。

H 2 7 全国学調「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと思いますか」

→「そう思う」22.2%（全国 23%、県 23%）

▲校内アンケートの結果から、自信をもって「学習内容が分かる」という児童の割合が低い。

そこで、今年度は、これまでの実践の成果を踏まえ、「身に付けた基礎的・基本的な知識や技能を活用し、目的に応じて思考を整理し根拠に基づいた思いや考えを表現する力」を高めたい。そのために、「条件に合わせて書く活動」を取り入れることにより、自分の考えは条件に合っているか、自分の考えを確かめたり、整理したりしながら読みを深めることにつなげる。また、言葉を吟味することにより、言葉のもつ意味や言葉の使い方を意識することにもつながると考える。その際に、交流したり、相談したりする場を設けるなど場を工夫することにより、より自分の思いや考えを確かにさせたい。一人一人が「言葉の力」を高めることにより、自分の思いを表現できる子どもを育てたいと考える。そこで今年度の研究主題を「自分の思いや考えを表現できる子どもの育成～確かな言葉の力を身に付ける国語科『読むこと』の指導を通して～」と設定した。

② 校内研究の国語科における取組「条件に合わせて書く活動」を各教科にも位置付ける。じっくりと思考しなければならないような場や発問を一つは取り入れる授業

昨年度は、研究教科である国語科の「読む」領域を中心に行ってきたが、今年度は各教科の学習でも「条件に合わせて書く活動」を入れることを年度当初の研究会で確認して取り組んでいる。条件に合わせて書く活動は、じっくりと思考しなければならないような場や振り返りで行っている。その際、「理由づける」「順序立てる」「筋道立てる」「変化をとらえる」「構造化する」「具体化する」「抽象化する」「推論する」「変換する」「関係づける」「関連づける」「広げてみる」「焦点化する」「見通す」「応用する」「要約する」「評価する」「多面的にみる」「比較する」「分類する」など思考のパターンを意識させている。

(例)

国語：「①意見を短くまとめる ②共感か疑問か自分の考えを明らかに ③意見文について点数をつけていいところ、改善点を書こう」（「話す・聞く」「書く」の領域で）

算数：「3人の考えの共通点や相違点をとらえ、具体的に書いた後に抽象化してまとめよう」

社会：「明治憲法と五日市憲法、あなたならどちらを選びますか？比較して具体例を挙げて述べなさい」



理科：「キーワードを使って、今日の実験結果を説明しよう」

(児童の考え)

〇〇さんが伝えたいことは「みんながごみを拾って欲しい」ということだと思います。

ぼくはこの考えに共感します。理由は、僕の「生き物が安全に暮らせる場所を作る」というテーマにもその考えがつながってくるからです。

ぼくは、意見文の書き方は95点だと思います。全体的に文章がつながっているし、伝えたいことがはっきりとしているからです。残りの5点はごみのない街にするためにどのような活動があるかをいければ、もっと良くなると思います。

「海を汚さないでほしい」「海を汚さないように気を付けてほしい」ということを言いたかったのだと思います。

ぼくは共感します。僕も釣りをするときにお酒の瓶が浮かんでいるのを見たことがあるし、空き缶をつつたこともあるからです。

この意見文は90点です。自分の経験も入れているし、例えもわかりやすいからです。でも、「水槽〇杯」と説明していたけれど、水槽一杯が何Lか、L単位で表せばいいと思いました。

③ 「理解を深める」「分からないときは友達に『教えて』と言える」ペアやグループ学習を取り入れた学び合いの場の工夫を授業に位置付ける。

→ ペア・グループ学習

校内研究で「教師の説明が多い授業ではなく、ペアやグループ学習を多く取り入れ、より分かる・よりできるように」という内容で取り組んでいる。分からないとき友達に「教えて」と言える態度・教えたり話したりすることでより理解が深まることが成果として挙げられる。全員が黒板を見て、一時間学習をするのではなく、全ての担任がペアやグループ学習を意識した隊形で授業を行っている。

また、全校朝会などの全校の集まる場でも、近くの友達と相談させる機会を意図的に設けている。



④ 即時評価を大切にし、児童自身ができているのかできていないのかをメタ認知できる授業

→ ノートの丸付けや場に応じた声掛けを行う。

毎時間、丸付けや「できた」「できていない」を児童がしっかり意識できるような間違い直しができる場を設けた。

このことにより、教師は毎時間の評価をしっかりとできるようになるとともに、児童も学習内容をあやふやにすることがなくなるであろうと考える。



⑤ メタ認知につながる学習の振り返り

大沢小学校の振り返りをもとに、以下のように振り返りの内容を考えた。

○低学年： 学習の振り返り、分かったことや友達の考えを聞いて思ったこと

○中学年： 学習の振り返り（学習内容と分かったこと、分からなかったこと）、友達の考えの良さや自分の考えの変容、次に考えてみたいこと

○高学年： 学習の振り返り（学習内容と分かったこと、分からなかったこと）、交流し合ったことで高まった自分の思いや考えを整理して記入

(振り返りの例)

今日は比例の考え方をつかって問題を解いた。

分かったことは、300枚の重さを求めるには、10枚当たりの重さや一枚当たりの重さを基にすればいいことが分かった。ただ、300枚なら10枚当たりの方は $\times 30$ 。一枚当たりの方は $\times 300$ すればいいのだが、1234枚の重さを求めるという問題の場合は一枚当たりの方がやりやすい。つまり、一枚当たりを求めてからの場合と10枚あたりを基にするのでは、どちらもいいところ、悪いところがある。

ぼくは、教科書の「かおりさん」の考えの1枚当たりの重さを求めてやる方法には気が付かなかった。これからは必ず2つか3つの考え方をもち、それぞれの良いところと悪いところを比較して考えていきたい。しっかりとひとり勉強で復習したい。

【具体的な取組2 習熟時間の確保】

正答率の低かった問題を洗い出し、定着指導にあたる。

昨年度の結果をもとに、県学調、全国学調、CRTの小問ごとの分析を活用し、定着の不足分野のプリントを全学年分準備した。各学年では、補充指導の際や水曜日6校時の個別指導の時間に活用し定着を図った。また、朝学習時に期間を決めて「スキルアップ」の時間とし、1つの学年に担任外5人が入り、20分間個別指導にあたった。日を変えながら全部の学年に指導ができるようにした。即時評価をすることで、児童は間違っただけ進むことがない状況を作っている。

【成果と課題】

(成果)

○質問紙の「国語の授業がよくわかりますか」の項目を比較すると、H26 県学調から H27 県学調「よくわかる 63%」と割合が増えてきている。(本校のアンケートによる同学年の変化を見ても H26 県学調、全国学調ともに「よくわかる」が 22%だったのに対し、10月に行った調査では「よく分かる」が 70%に増加している。)

○どの教科も正答率 8 割前後と概ね良い。「読む」領域をみると、県正答率「54.2」に対し本校の正答率は「68.8」と県より、14.6 ポイント高くなっている。

○四則計算の正答率も「93.7」と目標値をクリアしている。

○「条件に合わせて書く活動」を行うことにより、どの教科も記述問題の無答率が 0% (漢字除く) となった。

○質問紙の回答を見ると授業改善として取り組んできた内容が確実に児童の意識につながっている。

「普段の授業で、自分の考えを発表する機会が与えられていると思いますか」 → 「そう思う」本校 100%

「普段の授業で、はじめに授業のねらいを確認していると思いますか」 → 「そう思う」本校 100%

「普段の授業で、最後に学習を振り返る活動をよく行っていますか」 → 「そう思う」本校 88%

「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができますか」

→ 「そう思う」本校 100%

○振り返りの時間を確保し、書く視点を明確にすることで、子どもが、何を学んだか認知し、学習内容の定着につながっている。

○スキルアップの時間に丁寧な指導が一人一人の「書く力」「問題を解く速度」「あきらめない力(無答率の減少)」などついてきている。

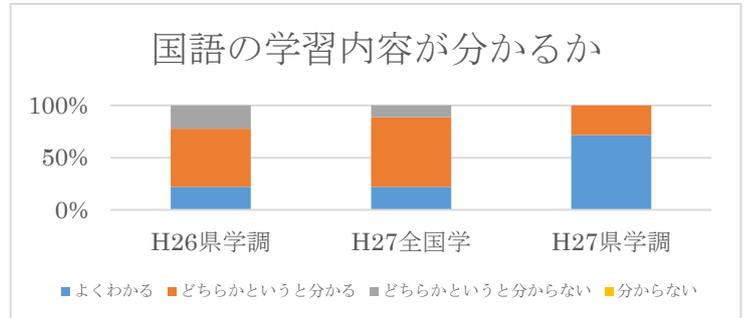
○「条件に合わせて書く活動」「振り返り」など考えながら書く活動を充実させたことで思考力が高まった。

○全職員が共通意識を持ち取り組んだおかげで、確かな学びが定着してきている。

(課題)

●条件が複数あったり、抽象的な内容で答えを求められたりする問題が苦手だという結果が見られる。

●学習の振り返りを十分にとることができないことがある。授業改善の方向を再検討し、一時間一時間の学習内容を児童がしっかりと振り返ることができるようにしていきたい。また、振り返りの質も高めていきたい。



	H25	H26	H26 県平均	H27	H27 県平均
国語	78.2	72.2	65.0	77.9	63.1
社会		75.2	71.4	82.1	70.8
算数	78.0	86.7	72.4	79.8	73.1
理科	74.3	78.5	68.6	85.4	68.2

